



愛知教育大学彫刻研究室の学生や彫刻の作者が中心となり、野外彫刻プロムナード展の作品を入れ替えています

【巻頭特集】 芸術を通したまちづくりに注力

若手作家と地域がつながる 野外彫刻プロムナード展

パティオ池鯉鮒のエントランスロードに飾られる6体の彫刻。

「野外彫刻プロムナード展」と名付けられ、毎年9月下旬に作品が一新されています。

凛とした人の姿、動物を模った像、苦悩や喜びを表現した石のオブジェ――。

作家のアイデアあふれる彫刻が、鑑賞者を惹きつけています。来年で20周年を迎える事業が始まった背景には、

「芸術を通してまちづくりに貢献したい」という振興運営委員会の思いがありました。



1
2
3

- 丸みを帯びた形と石の感触が魅力。「まるみ(野口直人さん作・名古屋造形大学卒業生)」
- 「強さや温かさを共有したい」と制作。「ride a lion(津田沙季さん作・愛知教育大学卒業生)」
- 芯が通って凛とした姿を表現。「カドリーユ(柴田茜さん作・愛知教育大学卒業生)」

学生の思いが込められた作品
地域の文化向上に貢献

2000年、パティオ池鯉鮒の誕生と共に始まった、野外彫刻プロムナード展。会館前のエントランスロードに彫刻が並び、のどかな田園風景と調和した魅力ある景観となっています。彫刻の作者は、愛知県内にある芸術大学の在校生や卒業生など、若手の作家。愛知教育大学と知立ライオンズクラブの協力により、年一度、展示作品を一新しています。「教員たちが一生懸命に取り組んだ卒業制作の作品を、多くの人に見てもらえる機会をつくりたい」と常々思っていたんです」とほほ笑むのは、愛知教育大学名誉教授の宇納一公さん。野外彫刻プロムナード展の振興運営委員会顧問を兼任し、「アートを通して、地域の人々と学生が交流を図り、まちづくりと文化向上に貢献したい」という思いのもと、構想段階から事業に関わっています。

きっかけは、知立ライオンズクラブが、宇納さんにパティオ池鯉鮒へ寄贈する彫像を依頼したことでした。「せっかくなら、訪れる人たちの目に触れる場所に台座を設置して、生徒たちの作品を毎年、入れ替えて展示したいと提案したんです」と振り返ります。2000年、事業がスタート。開催を重ねるうちに「芸術や文化を大切にすまちなちづくり」を施策にする知立市も賛同。地域の連携事業として市民に親しまれ、今年で19回目を迎えました。

皆さんからの反応が、若い作家たちの励みになります。たくさんの方に見ていただき、作品を通して地域の方たちとつながりを持てればうれしい

若手作家のアイデアが集結 新たな作品が9月末から展示

「学生たちが考えたものは、斬新でおもしろいものがたくさんありますよ」と笑顔を見せる宇納さん。これまでの展示作品は、コンセプトのほか、大きさや素材など学生のアイデアに富んでいます。

2006年の作品「疾走(三宅瑞州さん作)」は、下着がずり落ちた姿で疾走する人を表現。彫刻を目にした人から「もつと詳しく知りたい」と問い合わせがありました。また、地元商店街の店主が「店先に飾りたい」と購入したケースもあります。「皆さんからの反応が、若い作家たちの励みになります。たくさんの方に見ていただき、作品を通して地域の方たちとつながりを持てればうれしい」と宇納さんは目を細めます。

19回目は、9月22日に展示が入れ替わったばかり。今年度は愛知教育大学から2体、名古屋芸術大学から2体、愛知県立芸術大学と名古屋造形大学から1体ずつ展示。各芸術大学の卒業制作展へ足を運んで協力を依頼している、知立市都市計画課



(上)知立の昔話をモチーフにした『片目の鯉(宇納一公さん作)』をはじめ、地域にちなんだ彫刻が並ぶ東海道松並木。「新日本歩道道紀行100選シリーズ・文化の道」にも選ばれた魅力ある場所です(下)野外彫刻プロムナード展で展示を終えた作品の一部は、駅前や公園などへ。点在する野外彫刻を巡ってみるのもおすすめです。写真は『微笑む人(山本真由美さん作)』

彫刻のある風景づくりで 知立に新しいスポットを

の藤本佳織さんは、「今年も個性ある作品が集まりました。大人も子どもも楽しめると思いますので、ぜひ鑑賞していただきたいです」と話します。バレリーナが舞台上で見せる凛とした姿をイメージした彫刻、幅180センチ高さ72センチの迫力あるライオン像など、若手作家が情熱を注いだ6体が、来年9月20日まで展示されます。

2010年、野外彫刻プロムナード展が10周年、知立市制は40周年、知立ライオンズクラブは創立45周年を迎えました。それを記念して「2010アートプロジェクト」の実行委員会が発足。翌年6月に特別企画事業として、記念展やシンポジウムのほか、学生主催のおさんぽ展も行われ

ました。またワークショップも実施され、地域の子どもたちが学生と一緒に造形遊びを楽しみました。2015年には野外彫刻プロムナード展15周年を記念して、東海道松並木周辺の遊歩道に、知立にちなんだ彫刻作品5体を設置。「知立は東海道39番目の宿場町です。江戸時代には、多くの旅人が松並木を歩き来しました。今でも大切に保存されているこの場所に、新たなアイデアをもって、より観光が盛んになればと願い、彫刻のある風景づくりを行いました」と藤本さん。

来年は、事業が20回目を迎える節目。「20周年を市民の皆さんとお祝いできるような記念事業を企画したいと思っています」と藤本さんは意気込みます。地域と学生が芸術を通してつながり、より知立の文化発展に貢献しています。

information

野外彫刻プロムナード展 2018

2019年 9月20日[金]まで開催中

会場/知立市文化会館パティオ池鯉鮒
事務局/知立市役所都市計画課都市企画係
TEL 0566-95-0129

パティオ池鯉鮒野外彫刻プロムナード展
振興運営委員会顧問
愛知教育大学名誉教授
宇納一公さん(左)
知立市役所 都市計画課
藤本佳織さん(右)

